

6-11 中国・四国地方の地殻変動

Crustal Movements in the Chugoku and the Shikoku District

国土地理院

Geographical Survey Institute

第1図は、米子地区精密変歪測量結果である。前回と比較してほぼ南北方向に伸びているが、特に大きな変化はない。

第2図～第4図は、四国地方の水準測量結果である。

第2図は、善通寺から阿南へ行く上下変動で、徳島平野の徳島市、鳴門市付近で地盤沈下が見られる。水準点321と320の間を中央構造線が通るが、特に変化は見られない。水準点322が回りの点と比べて約1cm程隆起しているが、この辺りを境に両側から盛り上がっているようにも見える。

第3図は、阿南市から室戸市に至る路線であるが、室戸岬の大きな沈下が見られる。この現象は、プレートの沈み込みに伴う沈下と整合している。

第4図は、室戸市から高知市に至る路線で、前回と同様に室戸岬の沈下が見られる。

第5図は、水準点5004（高知市）から5090（阿南市）までの路線を、1991年と'82年、'79年、'69年を比較した結果である。それぞれ室戸岬に向かって大きな沈下がみられる。

第5図の中央右の図は、水準点5163（安芸市）を基準とした時の、水準点F46（室戸市）の経年変化である。室戸岬は、1946年の南海地震前は $-7\text{mm}/\text{年}$ の速度で沈下していた。地震により約1m隆起したが、地震後は、国土地理院（●印）の観測結果を用いて計算すると、 $-7\text{mm}/\text{年}$ となり地震前の沈下速度と同じである。図の●印は国土地理院が測量した結果、○印は地震研究所が測量した結果である。ただし、地震研究所の結果は、水準点5147又は5144からF46までの観測である。

第6図は、室戸岬・小松島・久礼における各験潮場間の月平均潮位差である。室戸岬の沈下が顕著である。

参 考 文 献

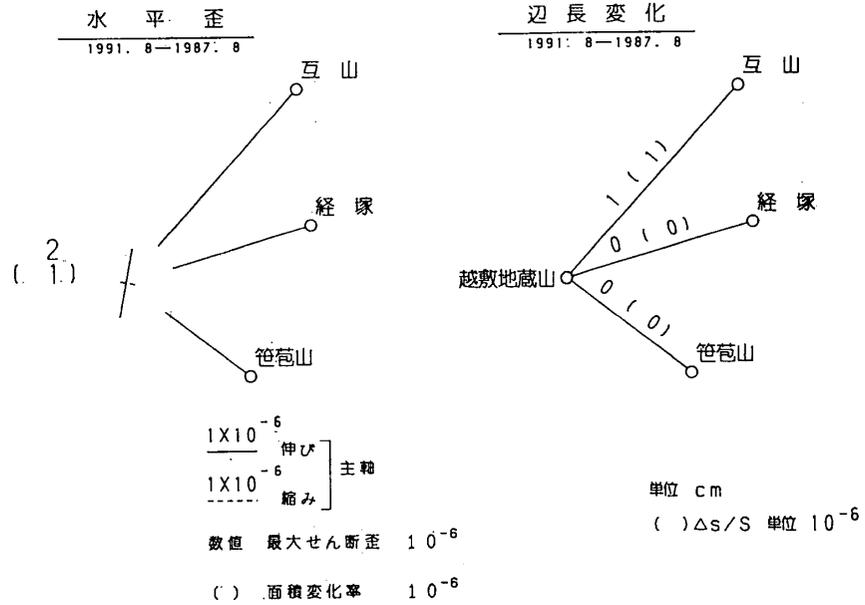
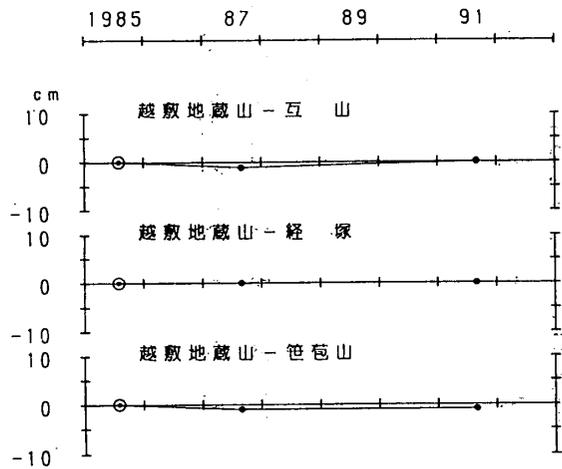
- 1) 国土地理院：四国地方の上下変動，連絡会報，30（1983），336-342.
- 2) 国土地理院：中国・九州・沖縄地方の地殻変動，連絡会報，39（1988），359-367.

測定年月	1985	87	91
区 間	7	8	8
越敷地藏山～互 山	10,589.40	.39	.40
越敷地藏山～経 塚	7,938.60	.60	.60
越敷地藏山～笹苞山	6,404.05	.04	.04

※ . 1 9 8 5 年の値は、一次基準点測量結果を使用。

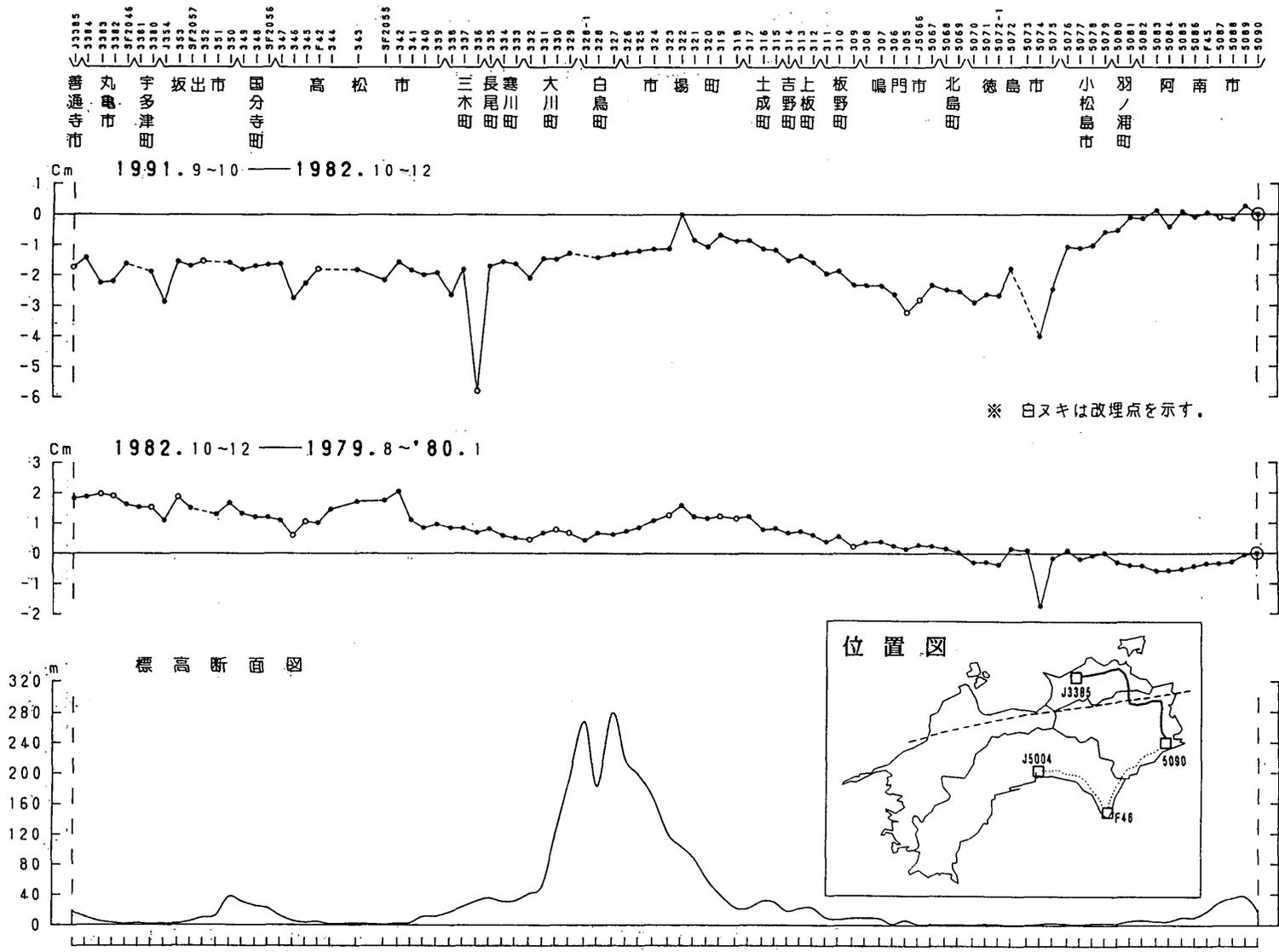


辺長の経年変化



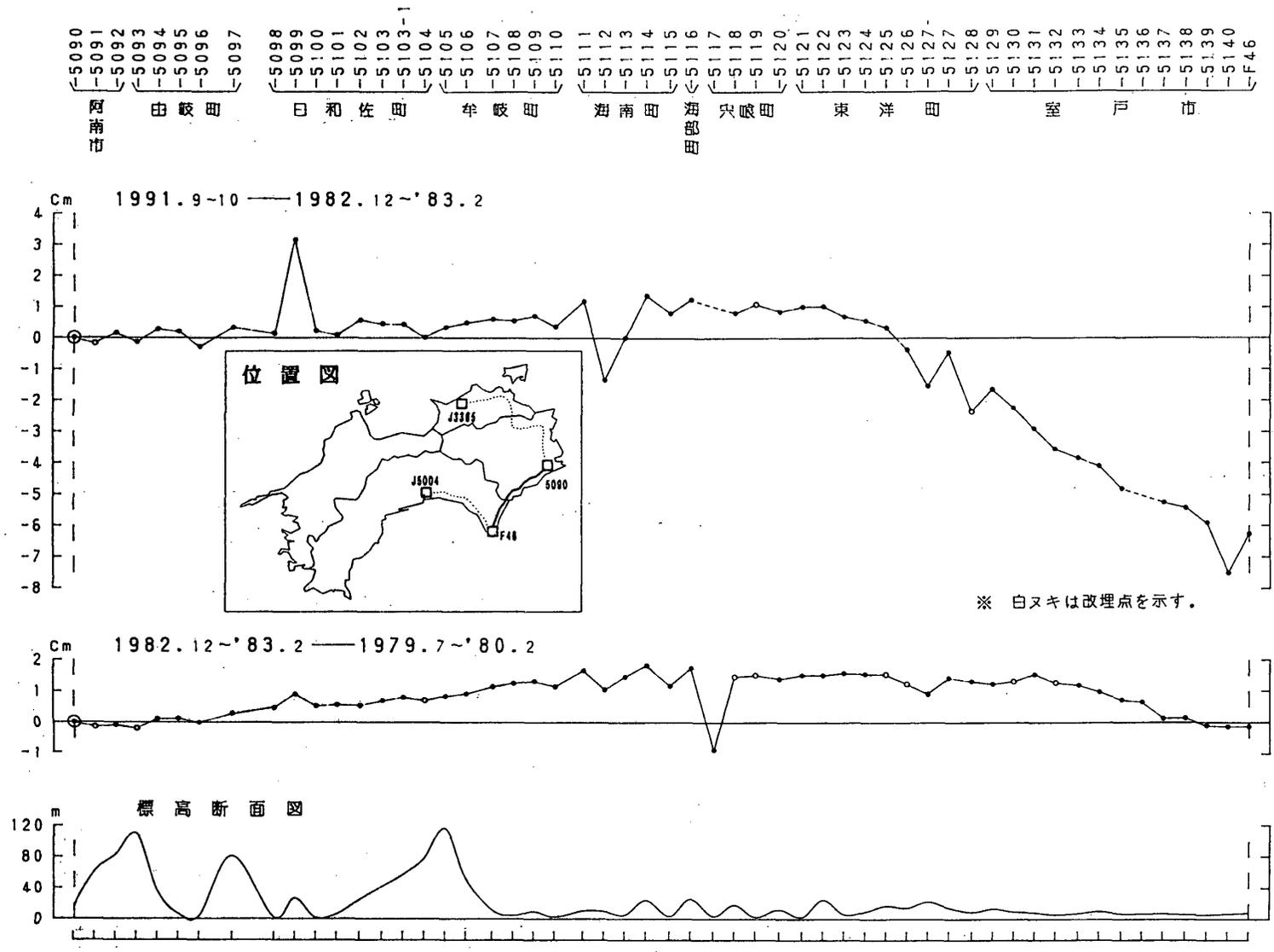
第 1 図 米子地区精密変歪測量結果

Fig. 1 Results of precise distance measurements at the Yonago radial baselines.



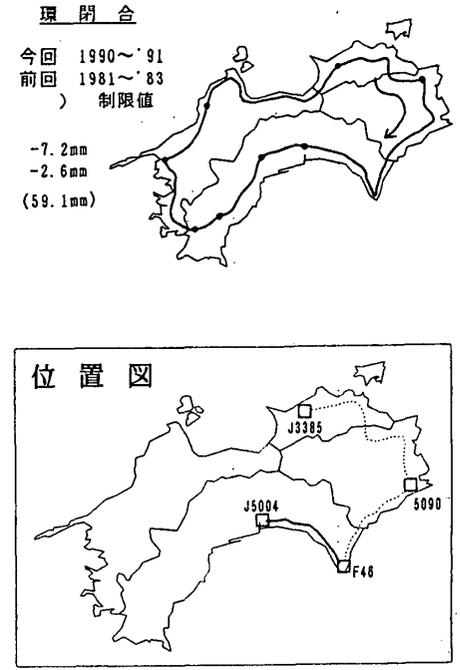
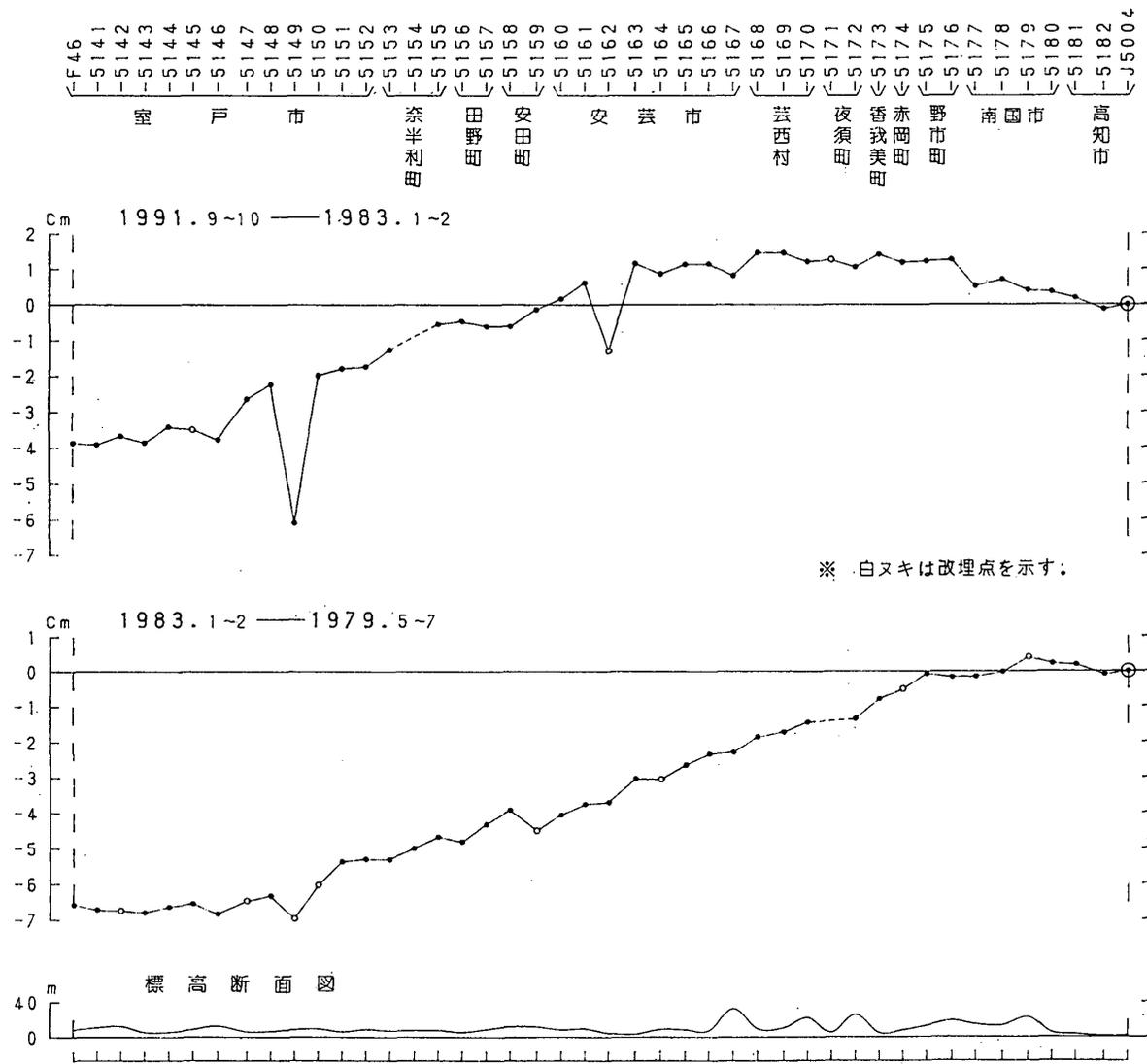
第2図 善通寺-阿南間の上下変動

Fig. 2 Level changes along the route from Zentsuji to Anan.



第3図 阿南—室戸間の上下変動

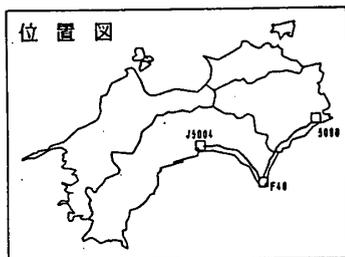
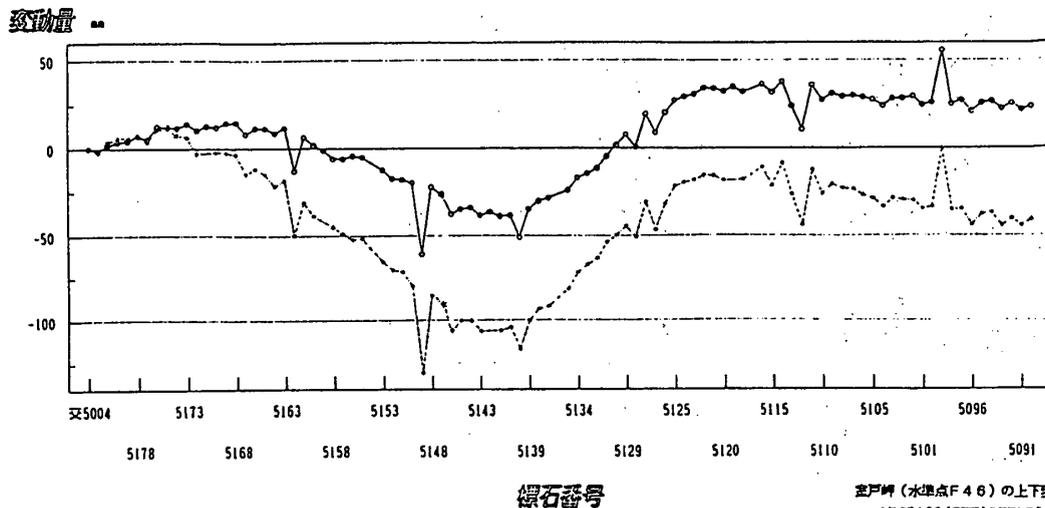
Fig. 3 Level changes along the route from Anan to Muroto.



第4図 室戸—高知間の上下変動
Fig. 4 Level changes along the route from Muroto to Kochi.

水準点変動図(交5004~5090)

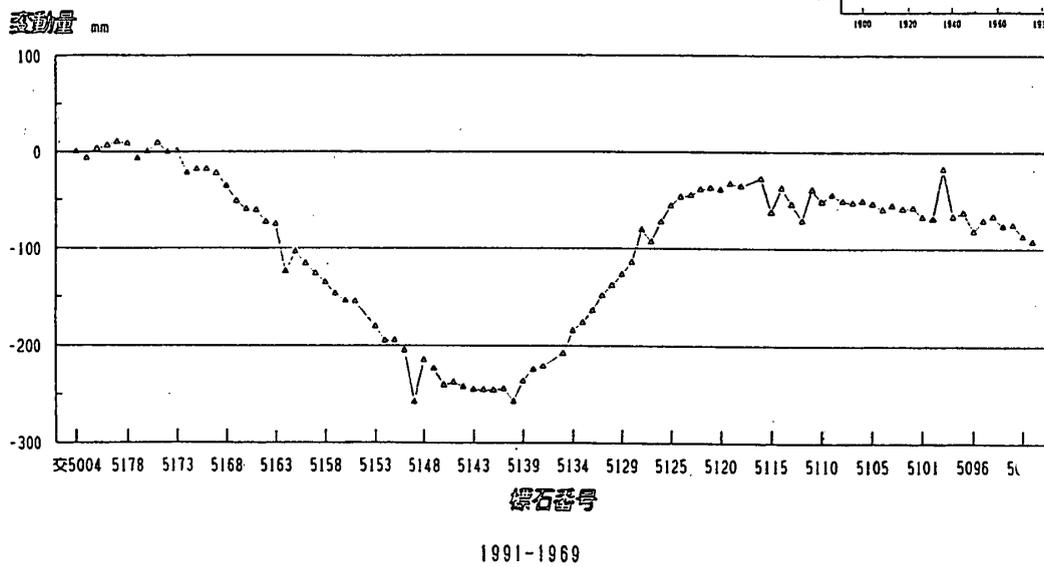
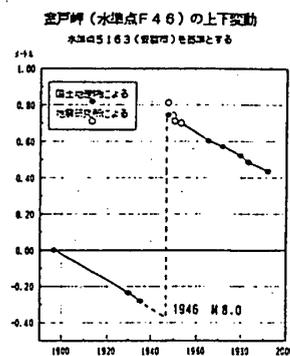
91-82 & 91-79 交5004仮不動



1991-1982 1991-1979

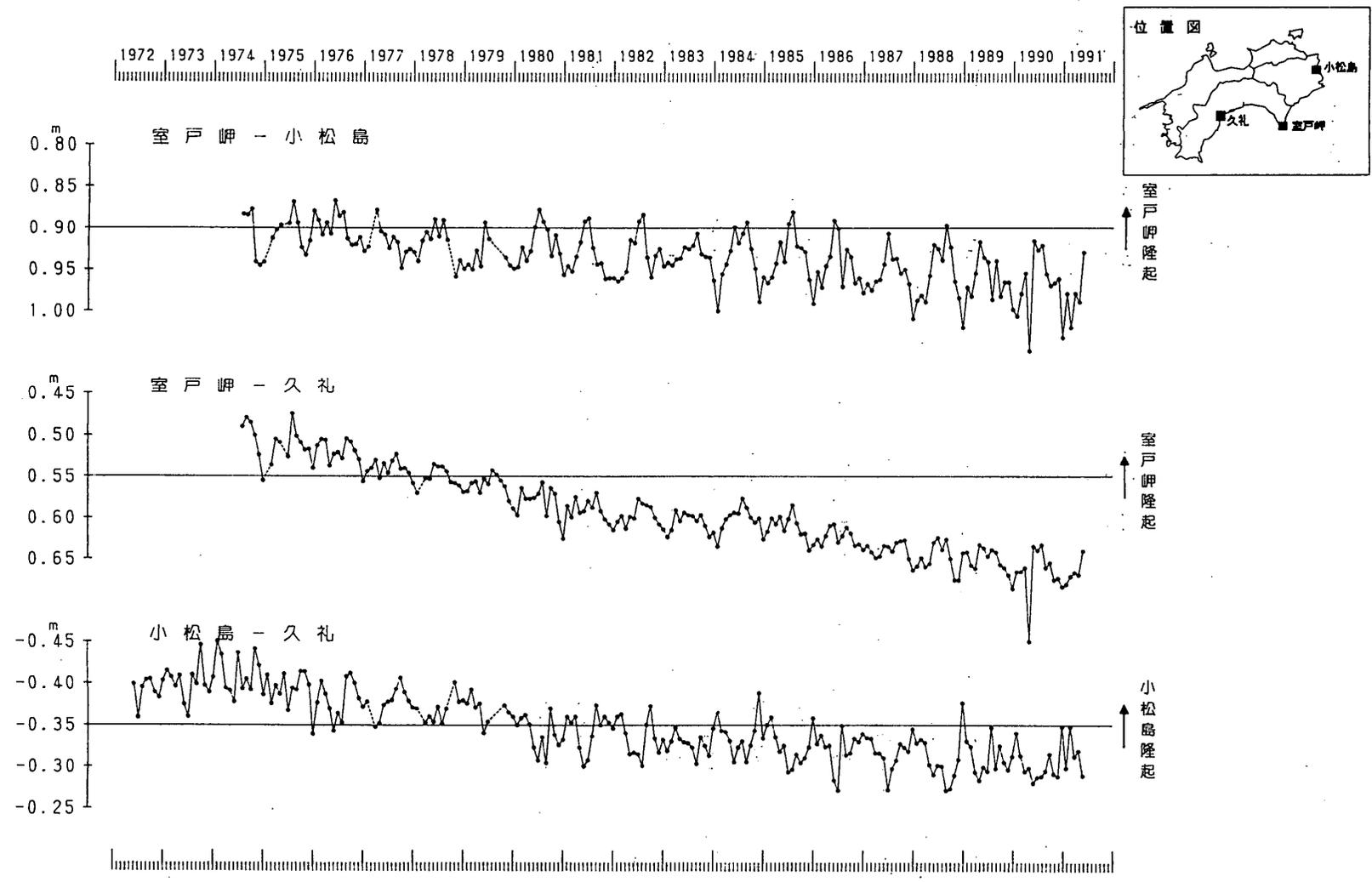
水準点変動図(交5004~5090)

1991-1969(平均成果) 交5004仮不動



第5図 高知-阿南間の上下変動

Fig. 5 Level changes along the route from Kochi to Anan.



第6図 室戸岬・小松島・久礼各験潮場間の月平均潮位差

Fig. 6 Differences in monthly mean sea levels between the Muroto, the Komatsujima and the Kure tide stations.